

探訪 チャレンジ企業 79

商店振興会の経営による山中温泉を発信する店舗

山中温泉中央振興会 東山ボヌール：山中

「温泉観光客周遊の新たな動線をつくりたい」そんな思いから、補助事業を利用し使われていなかった古い旅館を改装して平成二十二年に東山ボヌールをオープンした山中温泉中央振興会。観光スポットを新しく作ることで、商店振興会は生まれ変わることが出来るのか。その活動をご紹介します。

一 観光客の歩かない商店街

山中温泉は古くからある温泉場です。江戸期には俳聖 松尾芭蕉が長逗留した

唯一の温泉場でもありません。

温泉街は川に沿って形成され、現在では川沿いの鶴仙溪（遊歩道）（名づけ親は日本近代書道の父と言われる日下部明鶴）が観光スポットとして多くの人たちを集めています。

山中温泉には五つの商店振興会があり、観光客の集まる商店街、地元消費者のための商店街など、それぞれに特色をもった活動をしています。

山中温泉中央振興会は川下に沿って展開しています。商店街は鶴仙溪には沿っていないものの観光客は川上に集中しており、観光客の誘客が出来ていない商店街でした。

二 使われていない旅館施設

そこで鶴仙溪遊歩道の最も川下にある会員旅館の旧棟を多目的に活用できる店舗へ改装し、観光のお客様や地域の方々に山中温泉の新しい情報を発信したいと考えたのです。振興会会長である中村学紀氏（なかむらたかのり氏）おみやげ物販売（きぬや経営）はこの施設に目をつけた理由を「既存のイメージとは異なる空間を作りたかった。山中温泉といえば古くからの温泉観光地であり、山中漆器産地というイメージ。そういうイメージに頼らない

店舗を作りたかった。山中温泉には豊かな自然があり、その象徴が鶴仙溪だと思っていた。周りの自然環境を最大限に活用することが出来るのはこの店舗にとっては魅力だった」と語ります。



三 補助事業申請

施設の改装には大きな予算が必要となります。そこで中部経済産業局の平成二十一年度地域商店街活性化事業に提案申請をするこ

ととし「山中温泉中央振興会 空き旅館を利用した地域物産販売所整備・情報発信事業」として事業が採択され、施設改装の目処が立ったのです。施設は飲食が楽しめる場所であり、商店振興会員や地域の方々の考えを発表できる場所である（展示や集会）ことを目指しました。事業採択の決定から実行期間終了まではわずか五ヶ月ほど。短い期間で工事を完了させなければいけません。そこからの書類整備もまた多くの時間を取られるものでした。商店街単独での書類整備はほぼ不可能で

あり商工会事務局がお役に立った期間でもありません。そして旧旅館別棟が平成二十二年三月に東山ボヌールへと生まれ変わったので

四 今までにない雰囲気

山中温泉は歴史や文化が香る街である、と言われて来ました。歴史や文化を大事にするあまり、観光面では新しいことへの試みがあればかられる様な雰囲気があったのかもしれない。しかし東山ボヌールでは外装は昔のままに、内装は古い雰囲気を残しながらも若いお客様に好まれる新しい雰囲気としました。この場所では喫茶と昼食、会合や展示スペース等が設けられ、地域商店街のお土産も販売されています。このお土産品販売スペースが刺激となって商店振興会加盟店の新商品開発にも力が入るようになりまし



雑誌社やテレビ局等の取材も受けることとなり、「山中温泉に今までなかった新しい雰囲気のお店」として受け入れられて行きました。

た。観光客は勿論のこと、地元のお客様も集まるようになりました。

五 観光客の動線を変える

観光客の皆様は山中温泉の雰囲気を楽しみたいと感じていらっしゃると思います。では山中温泉の雰囲気とは？ 山中温泉の何を感じたいと思つてこの地へお客様がいらっしゃるのでしょうか？ 「古きを感じて新しさを楽しむ」そんなお客様に働きかけることで新しいお客様の動線をつくりたいと考えています。

（お問い合わせ先）

東山ボヌール

（山中温泉中央振興会運営）

〒九二二-〇一一四

石川県加賀市山中温泉東町

一丁目 ホ一九一

TEL

〇七六一-七八一三七六五

<http://www.higashiyama-bonheur.jp/>

（取材・執筆）

山中商工会経営指導員

鹿野 雄二

鹿野指導員の行った山中温泉中央振興会様への支援は、平成二十三年度の石川県商工会優秀支援事例の優秀賞を受賞しました。

このコーナーでは石川の「チャレンジ企業」を応援しています。取材を希望される方は最寄りの商工会にお尋ねください。